

Salon

Vol.91 2014年7月 夏号



ホール3Fホワイエ壁面 ポール・ゴッアマン作「ダンサー」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — ケマル・ゲキチ
- 03 Phoenix Presents — チケット発売情報
- 04 Pick Up
- 06 Phoenix Spot
- 07 Essay de say — 「祝! アドルフ・サックス生誕200年」 田端直美

12月、野心的なプログラムでピアノリサイタル 「世界のリスト弾き」として知られるヴィルトウオーズ ケマル・ゲキチさん



ケマル・ゲキチ。フランツ・リストの作品演奏の第一人者として世界に知られる実力派ピアニストだ。かつて「ヨーロッパの弾薬庫」と呼ばれたバルカン半島の西、アドリア海に面したクロアチア共和国の出身。1985年、ポーランドのショパン国際コンクールに出場し、シャープで情熱的、色彩感あふれる演奏で一躍、センセーションを巻き起こした。その後、ヨーロッパを軸に国際的なキャリアを展開。現在はカリブ海に浮かぶ米フロリダ州の音楽大学で教鞭を執りながら、世界規模で演奏活動を広げている。そんなゲキチがこの師走、ユニークなプログラムを携え、大阪にやって来る。前半は、フランス・ロマン派の巨匠セザール・フランクの最晩年の作品。後半は一転、自身にゆかりの深い中部ヨーロッパ・バルカン半島と、中南米(ラテンアメリカ)で生まれた近現代のエキゾチックな作品を特集。北と南。洗練と土俗。伝統と革新。様々な「対照」を示す、野心的なりサイタル。音楽大学での指導のため、東京に滞在中のゲキチを訪ねた。(あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール 谷本 裕)

評価を確立した演奏家がこんな冒険的プログラムを組むのは、稀だ。前半のフランクこそクラシック音楽ファンに馴染みのある作曲家であろうけれど他は、初めてという人が大半に違いない。初来日から20年。日本の音楽事情にも通じたピアニストの、狙いはどこにあるのだろう。

「超絶技巧練習曲」などリストの主要作品はもちろん、「熱情」「月光」といったベートーヴェンの有名なソナタ、そしてショパンの作品はほとんどすべてを、日本で弾いてきました。むしろそれは、重要なレパートリーです。ただ21世紀に生きる演奏家としては50年前、100年前の作曲家が残した素晴らしい作品も紹介しなくてはなりません。今回、後半で取り上げるバルカン半島やラテンアメリカの作品は総じて開放的、「外向き」。構造も比較的シンプルです。それには古典的で対照的な音楽を組み合わせたい。内省的で、ポリフォニック(多声的)なフ

ランクの作品を選んでみました。

仏ロマン派の大傑作

セザール・フランク。ゲキチの主要なレパートリーをなす作曲家フランツ・リストと縁が深い。リストはフランクのパトロンであり、盟友だった。ヴァイオリンソナタや交響曲が知られ、フランス音楽の分野で優れた弟子を輩出したが、音楽史全体に大きな影響を与えた、とは目されていないように思われる。

フランク(1822-1890):

前奏曲、コラールとフーガ(1884)

前奏曲、アリアと終曲(1986-7)



作曲家としてのフランクは過小評価されています。彼は幼少期からピアノ演奏に秀で、「神童」と目され、父の後押しで活発な演奏活動を重ね

ました。ピアニストというものは、単に楽器が弾ければ良い訳でない。聴衆を魅了する社交的能力も必要です。彼は孤独を好み、内省的な人。そうした活動は好まなかったでしょう。リストと出会ってから、極めてシリアスな作品を書くようになりました。創作上のアドバイスや、作品出版のための手引きを受けたのです。《前奏曲、コラール、フーガ》は彼にとって40年ぶりのピアノ曲。《前奏曲、アリアと終曲》もその少し後、いずれも最晩年に書かれています。高齢になって、なぜピアノに回帰したのか分かりませんが、この2曲は自伝的作品といって良い。古いバロックの書法と、近代ロマン主義とを結び付けた、独自の様式が現れています。曲が3つの部分から構成されているのは同じですが、内容的にはまるで、7月と12月。これまた対照的な性格です。フランクはパリの教会でオルガン奏者を務め、バッハを永く敬愛していました。今回の作品からも、バッハのオルガン曲の響きを聴き取れるはず

KEMAL GEKIC 1962年クロアチア生まれ。81年リスト国際ピアノコンクール第2位。85年ショパン国際ピアノコンクールで優勝候補とされながら審査員の意見が分かれ、本選に残れなかったが、聴衆と批評家の支持を集め、一大センセーションを巻き起こす。この時の演奏に対しハノーファーのショパン・ソサエティから最優秀ソナタ特別賞を授与される。90年代にリストの第一人者として不動の地位を築いた「超絶技巧練習曲全集(ビクター)」など活発にレコーディングを行い、「リスト=ロッシニのトランスクリプション(NAXOS)」ではロゼッタ賞を受けた。ウィリアムスタウン国際ピアノフェスティバル(アメリカ)でのリストの『巡礼の年第2年』のほか、多くのライブ録音も行う。現在、米フロリダ在住。フロリダ国際大学教授。武蔵野音楽大学客員教授も務めている。

「ケマル・ゲキチ ピアノリサイタル」は、2014年12月19日(金)午後7時開演。入場料5,000円(指定席)、友の会4,500円。学生3,000円チケットのお求め、お問い合わせは同センター(電話06・6363・7999 土・日・祝を除く平日午前10時~午後5時)。プロ アルテムジケ主催。

協賛
公演



7月18日(金)
10:00 受付開始
ザフェニックスホール
友の会優先予約

7月22日(火)
10:00 受付開始
イーフェニックス
E-PHX優先予約

7月23日(水)
10:00
一般発売

インターネット予約、ご来店による
お申込みは7月24日(木)10:00から!

注目アーティストシリーズ62

2014年11月21日(金)

世界のイマイが米マルボロ音楽祭で見初めた、「グローバル級」の俊英と情熱の三重奏。
今井信子 presents 弦楽トリオが奏でる「ゴルトベルク」

19:00開演 指定席
一般 ¥4,000(友の会価格 ¥3,600)
学生 ¥1,000(限定数)

出演 マイア・カベザ(ヴァイオリン)、今井信子(ヴィオラ)、ガブリエル・カベザス(チェロ)
曲目 J・S・バッハ:無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第2番 二短調 BWV1004より シャコンヌ(ヴィオラ・ソロ)
J・S・バッハ:ゴルトベルク変奏曲 BWV988(弦楽トリオ版)

アメリカのマルボロ音楽祭で知り合った金の卵ともいえる若手二人をご紹介します。ヴァイオリンのガベザさんはフィラデルフィアのカーティス音楽院を経て、現在ベルリンのハンス・アイスラー音楽院に留学中、チェロのカベザスさんもカーティス音楽院を卒業したばかりです。今年知り合った時は二人ともまだ20歳でした。3人で3週間この作品に取り組み、マルボロの森の中にあるルドルフ・ゼルキン・ホールで演奏しました。ルドルフ・ゼルキンは音楽祭のディレクターを務めた名ピアニストで、ゴルトベルク変奏曲を愛し、その名演奏を残した事でも有名です。演奏中、まるで彼の亡霊が乗り移ったかのように感じました。

今井信子(ヴィオラ奏者)



今井信子(いまい・のぶこ/ヴィオラ)

現代屈指のヴィオラ奏者として高い信頼と圧倒的な人気を誇る。ソリストとしてベルリン・フィル、ロンドン響ほか世界主要オケと、室内楽ではクレメル、マイルスキー、五嶋みどりらと共演。ヴェルビエ、マルボロ等国際音楽祭への出演も多い。日本では「ヴィオラスペース」の企画演奏に携わる。ミケランジェロ弦楽四重奏団のメンバー、また教育者としても多彩な活動を行っている。ザ・フェニックスホール音楽アドバイザー。



マイア・カベザ(Maia Cabeza/ヴァイオリン)

1992年生まれ。2013年レオポルト・モーツァルト国際ヴァイオリン・コンクール優勝。カーティス音楽院を経てベルリンのハンス・アイスラー音楽大学とベルリン・フィルハーモニー・カラヤン・オーケストラ・アカデミーで研鑽を積んでいる。ソリストとしてミュンヘン放送管、フィラデルフィア管、デトロイト響等と共演。またジュリアード、フェルメールら著名弦楽四重奏団のメンバーと室内楽を演奏するなど多彩な活動を行っている。



ガブリエル・カベザス(Gabriel Cabezas/チェロ)

1992年生まれ。カーティス音楽院にてカーター・ブレイに師事。ソリストとして既にニューヨーク・フィル、ロサンゼルス・フィル、シカゴ響、フィラデルフィア管等アメリカの主要オケと共演。室内楽や様々な演奏家との企画公演も精力的に取り組み、マルボロ、アスペン等の国際音楽祭に出演している。五嶋みどりのパートナーズ・イン・パフォーマンスなどアウトリーチ活動にも積極的に参加している。アメリカ・チェロ界期待の新星。

ホール主催・協賛・公演チケットのお申込み方法

06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

<http://phoenixhall.jp/>

チケットセンターのページからお申込みください

直接のご来店による
お申込み

・ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物5階、エレベーターを降りて廊下右手です。



- ザ・フェニックスホール友の会優先予約
 - ・ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
 - ・主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
 - ・友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。

- E-PHX(イーフェニックス)優先予約
 - ・E-PHX(イーフェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
 - ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
 - ・事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページから登録ください。お電話での登録はできません。

- 一般発売
 - ・一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
 - ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

- インターネット予約(主催公演のみ)
 - ・ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
 - ・チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますがお電話でお問合せください。
 - ・ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。
 - ・学生券のインターネットによるご予約は受付いたしておりません。
 - ・チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールを送りいたします。

チケットお申込み後のお受け渡し方法 下記①または②のどちらかとなります。

- ①お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00です。
- ②先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律400円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内 ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛公演 関西二期会サロンオペラ第9回公演「シャモニーのリンダ」

主催

公益社団法人関西二期会

2014年8月21日(木)・22日(金) 両日19:00開演 自由席 一般前売・当日¥3,000(友の会価格¥2,700)

出演 松浦修(指揮)、藪川直子(演出)、蛭川千佳(ピアノ)、斉藤言子(公演監督) 関西二期会アンサンブル 曲目 ドニゼッティ:歌劇「シャモニーのリンダ」
 21日 22日
 リンダ: 小倉篤子 朴華蓮
 ピエロット: 阪上真知子 梶谷栄里子
 カルロ: 藤田大輔 山中幸治
 アントーニオ: 黒田まさき
 マッダレーナ: 伊藤碧 樋岡絵里那
 領地の監督者: 西口佳宏
 ボアフレイヤー: 萬田一樹

毎回ご好評を頂いておりますこのサロンオペラ。これまでにオペラにふれたことのない方にも、気軽にプロの演奏を楽しんで頂くことをテーマに公演を重ねてきました。今回は「シャモニーのリンダ」をお届け致します。フランスの寒村シャモニーを舞台に、牧歌的なタッチで描かれた村娘リンダの純愛物語です。ドニゼッティのロマンティックな音楽をどうぞお楽しみ下さい。リンダとカルロの恋の行方を、ぜひ会場で見守って下さい。

協賛公演 エリッソ・ボルクヴァーゼ ピアノリサイタル

12/19公演(P.5参照)
とのセット券¥8,000

主催 プロ アルテ ムジカ

2014年10月9日(木) 19:00開演 指定席 一般前売・当日¥5,000(友の会価格¥4,500) 学生¥3,000

出演 エリッソ・ボルクヴァーゼ(ピアノ)
 曲目 ベートーヴェン:ピアノソナタ第3番 八長調 作品2-3
 ショパン:スケルツォ第4番 ホ長調 作品54
 :アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ 作品22
 ドビュッシー:組み合わせられたアルペジオのための練習曲
 :喜びの島
 プロコフィエフ:ピアノソナタ第2番 二短調 作品14

ニューヨーク・タイムズが禁断の才能と賞賛!
 輝けるヴィルトゥオージティ、気品と溢れる個性…抜群の感性が光るグルジアの星
 ソニーからCDリリースし、ゲヴァントハウス管、フランス国立管など次々と協演!!
 “彼女の音楽性と完璧にコントロールされたテクニックに深い感銘を受けた” —ズービン・メータ—
 “恐るべき才能…彼女の途方もない集中力に圧倒された。”
 —The New York Times by Bernard Holland—



協賛公演 林裕 チェロリサイタル Cellist=Composer・Collection

主催 ユーモレスク

2014年11月6日(木) 19:00開演 自由席
 一般前売¥4,000(友の会価格¥3,600) 一般当日¥4,500(友の会価格¥4,050) 学生¥2,000 ※友の会割引は1会員2枚まで。

出演 林裕(チェロ)
 佐竹裕介(ピアノ)
 曲目 トルトゥリエ:エレジー、小ソナタ“ブセファル”
 ブラームス:
 チェロソナタ第2番 へ長調 作品99 他

チェリストが書いた作品に焦点を当てて行う演奏会です。今年生誕100年を迎えるP・トルトゥリエと、生誕150年を迎えるH・ベッカーの作品を取り上げます。難易度の高いトルトゥリエ作品 小ソナタ “ブセファル”(乗用馬)は、午年と生誕百年が重なったことに運命を感じます。
 チェロという楽器に精通した作曲家ならではの技術的華やかさや、音楽的歌声が魅力だといえます。後半はブラームスのソナタ第2番をお楽しみ下さい。



協賛公演 田崎悦子ピアノリサイタル「三大作曲家の遺言」全3回シリーズ 第3回

主催 Joy of Music & Co.

2014年11月23日(日) 13:30開演 自由席
 一般前売¥4,000(友の会価格¥3,600) 一般当日¥4,500(友の会価格¥4,050) 学生¥2,500

出演 田崎悦子(ピアノ)
 曲目 ブラームス:4つの小品 作品119
 ベートーヴェン:
 ピアノソナタ第32番 八短調 作品111
 シューベルト:
 ピアノソナタ第21番 変口長調 D.960

「音楽の友」誌上でも大絶賛!—聴衆を魅了したのは作曲家への深い思いを感じさせる演奏だ。緻密でありながら自由に飛翔する打鍵を通して、聴衆と作曲家をつなぐ活き活きとした回路が創り出されていた。どの曲も限らない深みを背負う最後の作品だが、それらと新鮮な充足感で向き合えるのは楽しい。期待したい企画である。(嶋田邦雄)
 世界的ピアニスト、田崎悦子が全人生を捧ぐ渾身のリサイタルシリーズ「三大作曲家の遺言」は、ブラームス、ベートーヴェン、シューベルトの最晩年のピアノ作品ばかりを集めた壮大なプログラムで、今回で最終回を迎える。お聴き逃しなく!



©G.N. Lowrance

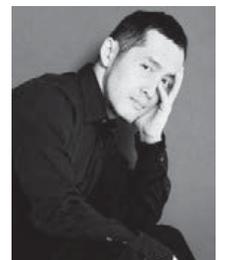
協賛公演 藤井快哉 ピアノ・リサイタル

主催 藤井快哉 ピアノ・リサイタル実行委員会

2014年11月26日(水) 19:00開演 自由席 一般前売・当日¥3,000(友の会価格¥2,700) 学生¥2,000

出演 藤井快哉(ピアノ)
 曲目 J・S・バッハ:イタリア協奏曲 BWV971
 バーバー:ピアノソナタ 作品26
 ドビュッシー:映像 第1集
 ラヴェル:クーブランの墓

テーマは「バロックから受け継がれた伝統のスタイル」。バッハのイタリアへの憧憬に始まる公演は、近代のバーバーへ。前衛を突き詰めたつもりが、第2楽章のスケルツォなどベートーヴェンを思わせる簡潔なソナタ。ドビュッシーはバッハと全く同じ構成で書いた。楽章の急—緩—急、調性の長—短—長。そこには偶然の一致とは思えぬオマージュが見て取れる。そしてラヴェルは先達クーブランへ最大の敬意を払った。歌・踊・形式はまさしくラヴェルの描いたバロック音楽である。



あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内 ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛公演 ヴォーチェ弦楽四重奏団 結成10周年特別演奏会

主催 テレビマンユニオン
協賛 東レ株式会社

2014年12月3日(水) 19:00開演 指定席
一般前売・当日¥4,000(友の会価格¥3,600) U25¥2,000(1989年以降生まれの方限定。公演当日に生年を証明できるものをご持参下さい)

出演 ヴォーチェ弦楽四重奏団:
サラ・ダイヤモンド、セシル・ルーバン(ヴァイオリン)
ギヨーム・ベケール(ヴィオラ)
リディア・シェレー(チェロ)
萩原麻未(ピアノ)

ヴォーチェ弦楽四重奏団はパリ国立高等音楽院の卒業生により2004年に結成。ジュネーブをはじめ国際音楽コンクールにて数々の受賞歴を誇り、瞬く間に国際的な評価を獲得しました。2008年にはザ・フェニックスホールで日本デビューを飾り、今回6年ぶりに大阪公演が実現。ジュネーブ国際音楽コンクールにて日本人として初優勝を飾ったピアノの萩原麻未を迎えた夢の共演。結成10周年記念にふさわしい特別プログラムにどうぞご期待ください!!



©Akira Muto



©Marion Gravrand-Daanaka

曲目 ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第4番 八短調 作品18-4
ヤナーチェク:弦楽四重奏曲第2番「内緒の手紙」
ドヴォルザーク:ピアノ五重奏曲第2番 イ長調 作品81

協賛公演 ケマル・ゲキチ ピアノリサイタル

10/9公演(P.4参照)
とのセット券¥8,000

主催 プロ アルテ ムジケ

2014年12月19日(金) 19:00開演 指定席 一般前売・当日 ¥5,000(友の会価格¥4,500) 学生¥3,000

出演 ケマル・ゲキチ(ピアノ)

曲目 フランク:前奏曲、コラールとフーガ :前奏曲、アリアと終曲
～バルカン半島より～
タイcheヴィチ:7つのバルカン舞曲 パバンドプロ:3つの練習曲
～ラテンのピアノ世界～
ヒナステラ:組曲「クレオール舞曲集」 アレン:変奏曲
レクオーナ:アフロ=キューバン舞曲集より黒人の踊り、仮想行列、真夜中のコンガ

シヨバン国際コンクールで“ボゴレリッチの再来”とセンセーションを巻き起こしたカリスマ天才ピアニスト!ピアノという楽器をいとも簡単に操るテクニックに聴衆は圧倒される。“ホロヴィッツ以来の最も才能のあるピアニスト…” —ボストン・グローブ誌—
“ケマル・ゲキチは人間ではない…” —South Florida Classical Review—



Osaka Guitar Summer 2014 関連プロジェクト
福田進一とマルシン・ディラによる
公開マスタークラスと受講生修了コンサート

受付開始
7/29(火)
10:00

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールは2010年8月、ギターを軸に据えた継続的な音楽プロジェクト「Osaka Guitar Summer(大阪ギターサマー)福田進一と仲間たち」を創設しました。

このプロジェクトは、福田さんと世界トップクラスの演奏家によるコンサートを中心とし、これら演奏家が次代を担う若者を指導、同時にギター演奏や音楽づくりの楽しさ、深さを一般の方に触れて頂く「公開マスタークラス」(ソロ部門ほか)、指導を受けた若者が、みずみずしい演奏を披露する「修了コンサート」の3本柱から成ります。

ギターはクラシックから現代音楽、ジャズ、ロック、世界各地の民族音楽—とジャンルや文化の壁を越え、多彩な人々に出会いをもたらす力を持つ「音楽のフリーパスポート」です。「世界音楽の時代」を体現するこの楽器をキーワードに、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールは、新しい時代にふさわしい、幅広い音楽を発信します。



<公開マスタークラス>

会場:あいおいニッセイ同和損保
ザ・フェニックスホール

8月30日(土) 14:30開始予定

8月31日(日) 13:30開始予定

<修了コンサート>

会場:あいおいニッセイ同和損保
ザ・フェニックスホール

8月31日(日) 17:30開演(17:00開場)

出演:公開マスタークラス受講生



- 参加費:〈公開マスタークラス〉、〈修了コンサート〉ともに、入場無料(要・入場券)
- お申込み方法:詳細は当ホールホームページでご確認下さい。
- お問い合わせ:ザ・フェニックスホール「大阪ギターサマー」係 06-6363-0211(平日10時~17時)

ゲストは「ドクター・ギタリスト」マルシン・ディラ

「Osaka Guitar Summer 2014 福田進一と仲間たち vol.5」8月30日(土)

大阪出身の世界的ギタリスト、福田進一さんが主宰する恒例の「Osaka Guitar Summer」。国内外の名手をゲストに迎え、コンサートやマスタークラス(公開講習会)でギター音楽を発信する夏の祭典だ。今年も8月30(土)と31(日)の2日間の日程で開かれる。福田さんが今季、ゲストに選んだのは、マルシン・ディラ。ポーランド出身の38歳。同じオスカー・ギリア(*1)門下だ。アルハンブラ国際(2000年)やGFA(アメリカギター財団 2007年)はじめ、何と19もの国際コンクールで優勝を重ねた、とびきりの名手。その後、世界の一流のホールや名門オーケストラとの共演で、キャリアを築いている。こう書くと、「猛者」のイメージが強いかもしれないが、実は極めて知的なタイプ。ご本人の許可を得て、ネットで公開されているインタビューから、彼の人柄の一端を示す言葉を選び、可能な限り言葉を補いながら編んでみた。(あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール 谷本 裕)

—多忙だ。2月以降、彼が仕事で訪れた都市は主要なものだけでもローマ、メキシコシティ、ブリュッセル、モスクワ、ロサンゼルス、サンクトペテルブルク、ミラノ、ヴッパータール(独)、イスタンブール、オストラヴァ(ポーランド)など。8月には台北や高雄(台湾)、大阪、東京といったアジアの都市が加わる。リサイタル、オーケストラとの共演、マスタークラス、コンクール審査などに引っぱりだこ。正に「空飛びギタリスト」。

旅は良いですね。「日常」に煩わされず、各地で旧交を温めたり、新しい友人や現地の学生と出会ったり。それが楽しい。演奏家として僕はその日、コンサートホールがどこなのか、あまり気にならないん

ですよ。聴衆が静かで、注意深く聴いてくれて、反応がはっきり感じられる場なら、どこも好きです。演奏は、コミュニケーションです。大切なのは、アーティストと聴衆が音楽を通じ、人間的な関係を築けるかどうか、ですから。

—ギターは基本的にソロ楽器。演奏家も、オーケストラの楽員などアンサンブルアーティストと比べ、一人で過ごす時間が長くなりがち。その中で、一つの「型」に閉じこもらず、常に人々に開かれた音楽を生み出し続けるには工夫が要る。彼の「心掛け」はこうだ。

舞台が終わって食事を摂り、宿に戻る。ベッドで

自分の演奏に責任を持つことは、とつても挑戦的なことだよ」と言っています。

福田進一&マルシン・ディラ ジョイントリサイタル

2014年8月30日(土) 19:00開演。ディラの演奏予定プログラムは、ウィーン古典派の作曲家ディアベリ(1781-1758)の作った「ソナタ第3番 へ長調 作品29-3」、巨匠セゴヴィアの盟友としても知られたメキシコのボンセ(1882-1948)作の「スペインのフロリアによる20の変奏曲とフーガ」、バルト三国のひとつラトヴィアを代表する作曲家ヴァクス(1946-)の「孤独のソナタ」。福田さんは武満徹や三善晃、池辺晋一郎といった日本人の作品を集めて演奏する。入場料 ¥4,000円(友の会 ¥3,600)、学生券1,000円(限定数・電話予約可・当ホールのみのお取り扱い)。チケットセンター06-6363-7999(平日午前10時〜午後5時)

—こう考える契機は、あるピアニストの発言だった。

ルービンシュタイン(*2)のインタビューを見た時のことです。80歳を超えていたのですが、話の途中、「恐縮です、そろそろ練習に行かなくては」と言ったんです。高齢なのに、なおも演奏を高めることを怠っていなかった。ルービンシュタインに限らず、私は成熟したアーティストの公演を聴くのが好きです。その人の人生経験がすべて、演奏に詰まっているように感じるのです。幼い頃、おじいちゃんから知識や経験を聞かしてもらうのは、家族のハイライトではありませんでしたか。音楽も似ています。大成した音楽家からは、偉大な物語を聴くことができる。出来れば僕も成長し続けたい。そのためには、音楽を深く知らなくてはなりません。

—そんな思いからか、ディラは昨年、母校カトヴィツェ音楽大学で博士号を取得した。

同じ学校で長く、教えているんです。最初は助手で徐々にポストが上がり、教授となるには博士号が必須です。研究するようになったのは、自然な流れでした。ただ、論文研究をしている当時は、葛藤しました。書物を読んだり、論文を書いたりする間は、ギターから離れなくてはならない。「演奏家として、時間をムダ使っているのでは」と思えることもありました。でも今は演奏だけでなく学究にも大きな価値があると信じています。もしギタリストが、自分の時間すべてを楽器の練習だけに費やすなら、単なる器楽奏者に留まってしまうのではないのでしょうか。聴衆から期待されるのは、「芸術家」あるいは「音楽家」です。興味を持ってもらえるような音楽を、生き生きと奏でられなくてはなりません。それは水準が高く、また個性的でなければなりません。時には科学的なセンスさえ要る。そして人間性を磨くことも、むろん必要でしょう。だからこそ、さまざまな知識を蓄え、そして考えることが、欠かせないのです。

*1 Oscar Ghiglia (1938-) イタリアのギタリスト。アンドレス・セゴヴィアに師事。63年、バリ国際コンクール優勝。サンチャゴ・デ・コンポステラ音楽院、キジアーナ音楽院などで後進の指導にあたった。

*2 Arthur Rubinstein (1887-1982) ポーランド出身。20世紀を代表するピアニスト。特にショパンの演奏で知られた。



©Kirk Rochester

Marcin Dylla 1976年、ポーランドのホジュフ生まれ。95-2000年、カトヴィツェ国立音楽院でヴァンダ・バラツに師事。スイス・バーゼル音楽院でオスカー・ギリア、ドイツ・フライブルクでソーニャ・ブルンバウアー、オランダ・マーストリヒト音楽院でカルロ・マルシオーネに学ぶ。アルハンブラ(2000年)、ホアキン・ロドリゴ(02年)、アメリカギター財団GFA(07年)など欧米の19の国際コンクールで優勝を果たす。以後、米カーネギーやウィーンのコンツェルトハウスなど名門ホールでのリサイタル、サンクトペテルブルク・フィル、パッファローフィル、スペイン放送響など世界各地のオーケストラとの共演を重ねている。06年には伝説的作曲家ロドリゴの遺族の指名で、新たに発見された作品「ギターのためのトッカータ」をマドリッドで世界初演。現在、故国のクラクフ、カトヴィツェの両音楽院で後進の指導にあたっている。音楽祭への盛んな出演や録音CDでも注目を集める。

(参照HPのURL)

<http://www.youtube.com/watch?v=7aa4Q5thrE4>

横になり、本番の出来を思い出す。この時間を大切にしています。余韻が残っていて、どこをどう弾いたか、記憶はまだ鮮明です。例えばその日は、ある協奏曲のある部分の解釈を普段と少し変え、演奏してみたときです。うまくいったなら嬉しい。逆に、うまくいかなかったことも何かあったかもしれない。それを確かめる。反省や教訓を次に活かす。新たな解釈を施す。このプロセスが重要です。

—演奏家として生きる限り続ける、「向上の営み」だ。

物事には必ず、多くの側面があります。考えることで、それが分かってくる。物の見方もどんどん変わります。一生、一つの考えに固執していたら、月並みな人になってしまふ。演奏も同じです。僕は、完全無欠な、確定した「到達点」を求めているんじゃない。音楽の有り方を常に自分で構想し、高みを目指し、変化し続けること。それが重要なんです。生徒にも、曲の解釈やテクニックは自分で考えさせる。決めさせる。「他人の奴隷になるな、自由であれ。

「祝! アドルフ・サクスの生誕200年」 — 田端直美



Keizo Matsui

エアメールが届いた。ホストファミリーの集合写真。おちびさんたちは今や立派に成長をとげている。「ナオミ、元気かしら?今年アドルフ・サクスの生誕200年よ。ここディナンでのコンクールもアニバーサリーで盛大に開催されるでしょう。こちらへ来られるなら、ぜひ我が家へ遊びにいらして!」ベルギーのディナンは、サクスの発明者であるアドルフ・サクスが生まれ育った町。ここでは4年に一度サクスの名を冠したコンクールが開催されており、奇しくも生誕200年の今年がコンクール開催年なのだ。ああ懐かしい!16年前の記憶がよみがえる…。

晩秋、空路13時間かけてベルギーへ向かう。アドルフ・サクスの国際コンクール受験のため、初めての海外一人旅&ホームステイへ。ホストファミリーのラール家は、医師である夫妻と、2歳から10歳まで4人の子供のいる賑やかな一家。築300年の4階建て石造りの家は町で最も古く、プールつきの広い庭と、グランドピアノのある一日中練習できる部屋もある。おまけにコンクール会場まで徒歩3分と抜群の環境。ただ、子供たちは仏語しか話せず、夫妻も学校で習ったさりの英語で、私のかかなり怪しい英語と相まって、身振り手振り、果ては絵で説明しながらのコミュニケーションに。

コンクールは全て一般公開で、近隣の住民も聴きに来る。一次予選は一人15分演奏し、4日間かけて180名から18名に絞られる。手足が震えるほど緊張したが、いつも通りの演奏はできた。聴きにきたラール夫妻が「何人か聴いたけどナオミが一番良かった」と言ってくれただけあり、無事予

選通過。セミファイナルは一人40分演奏。予選の時よりはリラックスできたものの、後半スタミナ切れで納得いく演奏できず。なかば諦めてその後ずっと聴くことに。案の定、6名のファイナリストには入らなかった。教会でオーケストラをバックに演奏するファイナリストを聴くにつけ、悔しさがこみ上げる。

その夕方、教会前の広場にはサクスの持った人が続々集まってきた。その数千人!仮装する人あり、お祭り状態。TVカメラも来てる。凍りつく寒さの中、トラックの上に立つ指揮者に合わせ大合奏が始まった。そこには審査員たちの姿も!底鳴りのするオルガンのような、壮大な音に包まれると自然と涙が溢れてくる。コンクールの結果なんかどうでもよくなり、サクスのやって、ベルギーに来て、本当に良かった!という気持ちでいっぱい。この1000人のサクスの大合奏はギネスブックにのるとのこと。

その後のレセプションは深夜2時に及び、各国のプレイヤーや審査員と交流を深めて刺激的なときを満喫。ラール家を去るときは、2週間の滞在中に起こった出来事が走馬灯のように駆け巡り、思わず涙。この経験を糧に、自分を磨いて、理想の音楽に一步でも近づこう!と街にそびえる巨大サクスの像に誓うのだった。

蘇ってきた記憶…ベルギービール、ムール貝の美味しさ。屋台のできたワッフルのカリッとした歯ざわり。今年も、私のような体験をする若者達がディナンへ向かうのでしょうね。アドルフ・サクスの生誕200年に乾杯!



田端直美(たばた なおみ) サクソフォン奏者

東京藝術大学を経て、同大学大学院を修了。第51回ジュネーヴ国際音楽コンクール、第2回アドルフ・サクスの国際コンクール、セミファイナリスト。第16回日本管打楽器コンクール第4位。第12回大阪国際音楽コンクール、優秀指導者賞受賞。マイスターミュージックよりソロアルバムを2枚リリース。現在、大阪市音楽団サクソフォン奏者。京都市立京都堀川音楽高等学校、徳島文理大学、同志社女子大学、非常勤講師。<http://naomisax.exblog.jp/>

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー5F TEL 06-6363-0211

Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2014年7月
発行 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール
編集 吉元 晃
デザイン 松井桂三 有限会社

